

「国家プロジェクト」として推進 ■成田空港機能強化、関係府省庁が連絡会議

「国家プロジェクトとしての成田空港及び周辺産業基盤の整備推進に向けた関係府省庁連絡会議」の第1回会合が13日開催された。成田空港のさらなる機能強化、それに伴う旅客取扱施設・貨物取扱施設の整備、国際航空物流拠点機能の強化、周辺地域の産業集積の促進、産業基盤整備などについて、関係府省庁が緊密に連携。「国家プロジェクト」として一体的に推進することが目的。

議長を務める金子恭之国土交通相は会議の冒頭、「成田空港の機能を強化することは、周辺地域とともに日本各地の成長を促進するものだ。北東アジアの国際ハブ空港としての地位を確立し、世界各地との連結性を高めることは、人流や物流の観点から日本の経済安全保障の強化に大きく貢献する」と言及した。連絡会議は国交省、内閣府、総務省、財務省、農林水産省、経済産業省、観光庁で構成。オブザーバーとして成田国際空港会社（NAA）、千

葉県が参加している。

10日に開催された「成田空港に関する四者協議会」（国、千葉県、周辺市町、NAA）で、B滑走路延伸部の29年度内の先行供用、C滑走路区域における土地収用制度の活用について確認したことに関して、金子国交相は「成田空港の年間発着容量50万回化の早期実現へ大きな前進であり、関係者に感謝の意を表する」と述べた。そのうえで「成田空港の歴史を踏まえれば、非常に重いものであり、国やNAAをはじめとする関係者は、そのことを改めて心に刻む必要がある」と語った。

今後、連絡会議では成田空港および周辺産業基盤整備の取り組みについて、担当する各府省庁からの報告が行われ、情報共有する。取り組み内容に関しては状況に応じて適宜見直す。必要に応じて関係府省庁以外の機関からも取り組み状況に関して適宜報



関係府省庁が連携して成田空港の機能強化に取り組む
（13日、国土交通省）

告を受ける。連絡会議の下に設置した幹事会（課長級会合）を活用しながら、定期的（概算要求、予算成立のタイミングなど）に報告が行われ、施策の進捗状況を確認しながら適切なタイミングで連絡会議を開催する。

金子国交相は関係府省庁が連携することに関して「地域との共生・共栄の精神に立ちながら、国家プロジェクトとして一体的に推進することが、日本、地域の成長の観点から必要不可欠だ」と強調。「関係府省庁が横断的に力を結集して取り組むことが必要と考えて連絡会議の立ち上げに至った。関係府省庁には最大限の協力をお願いするとともに、国交省の関係部局はスピード感をもって対応していただきたい」と述べた。